

Seeing is believing.  
(百聞は一見に如かず)

Triangle

令和5年 3月13日  
富江中学校 第26号  
校長 山上 福範

富中コーラスとどけ隊



3年生が富江病院と社会福祉協議会を訪問し、歌を届けました。目的は病院や社協の方への「感謝」、患者さんやデイサービス利用の方への「元気」を伝えるためでした。

★「雨でも心はあたたかい」

3年 川中

「雨が降りそうだなあ」。富江病院に着いた時、そんなことを考えていた。最初は外で歌う予定だったが病院の方が私たちを病院の中へ入れてくれた。病院の中はとても温かく地域のぬくもりを感じた。

最初は恥ずかしくて小さな声で歌っていたけれど、みんなの声につられて私の声も大きくなっていった。歌が終わるとアンコールをしてもらった。とても嬉しかったし、楽しかった。

次に社会福祉協議会へ行った。私たちの歌に涙を流している方もいて「来て良かったなあ」と思った。コロナでマスク生活が続いているが、外でマスクをはずして歌えて良かった。歌を聴いてくださった方々への表情や拍手は私の気持ちを変えた。

私は今まで、地域の方への感謝の気持ちを伝えることは、とても難しいことだと思っていたが、そうではないと気付いた。

学校から帰る時「お帰り」と言ってくれる方がいる。私はペコ！と頭を下げるだけだ。次は勇気を出し

て「ただいま」が言いたい。すれ違った方への挨拶や地域のゴミ拾いなど、できることはたくさんある。

たくさんの方に愛されてきた分、感謝の行動をしていきたい。



★「悪いことばかりじゃない」

3年 山本

「感謝の思いを歌声で届ける」。2月14日、地域の病院と社会福祉協議会へ行き、合唱コンクールで歌った曲を披露した。正直練習不足で、声量も音程も忘れており、コンクールと同じようには歌えなかった。だけど、楽しそうに手拍子をしたり、涙を流したりしながら聴いてくださる方々がいた。病院では横断幕が準備され、お礼のメッセージが書かれていた。「訪問して良かった」と心から思った。

歌声と一緒に自分たちで育てた花もプレゼントした。笑顔で受け取ってくださり、その場にいたみんなが笑顔になった。後日、地域の銀行、郵便局、交番、商店街にも花を届けた。私たちの町全体が、笑顔で明るくなった気がした。

訪問活動は2年目になる。コロナ禍

で合唱を発表する場が少なくなったため、地域の方に聴いていただこうというのがきっかけだ。私はふと、コロナ感染症が原因で問題になったことがたくさんあったけれど、プラスに転じることもあるんだなと思った。

一見悪いことに思えることも、必ず光は差すんだと、そう感じる体験であった。

English = Tool



世界には196カ国、約7000の言語があるとされています。母国語として話す人口が多いのは中国語、会話で使う人口が多いのは英語です。世界の共通語である英語は、相互理解のための道具と言えます。母国語や民族、宗教、年齢、性別などが違っていても、英語を通して相手の考えを理解したり、自分の気持ちを表現することができます。

その有効な道具をどうやって身に付けるか？ それは練習です。数多く聴いて、話して、読んで、書く、つまりスポーツや習い事と同じです・・・という話を1年生に伝えた後の感想を紹介します。

#### ★小畑

言語が違う国同士でも、英語を使えばコミュニケーションを取り、互いの国について理解し合えるということを学んだ。



#### ★富永

最初は正直「英語か～嫌だな～」と思いながら聞いていたが内容がわかってくると英語の多様さや楽しさ

大切さに気付くことができました。

#### ★山口

「English＝道具」「英語は勉強じゃなくて練習」と聞いたので、もっと気軽に英語を「練習」してもいいんだなと思った。



#### ★中村

何かを作るには何か道具がいる。だから何かをするには英語が必要。最初自分は英語に関わりがない人間だと思っていたが、視野を広げてみれば、全然関わりがあった。

自分が外国へ行かなくても、日本へ来る外国人が増えています。また、日本の会社であっても打合せを英語で行う会社が増えています。

そういった理由で、子どもたちには英語という道具を使って、多くの人と関わることを通して、より良い社会を「創って」ってほしいと思います。

世界中どこで誰と会っても始まりは「Hello」と「Thank you」からです！

#### 皆勤賞

3年間無欠席(停止は除く)だった生徒を紹介します。

★川中	川邊	小畑
永尾	濱口	福山
堀口	三浦	宮崎
山本	芳野	

自転車通学の生徒、特に宮崎さんは、お姉さんに続いて3年間、丸子から峠を越えての登下校でした。

3年生には、卒業後も安全と健康を第一に、失敗を繰り返しながらも、自分らしく、自分の人生を生き抜いてほしいと願っています。